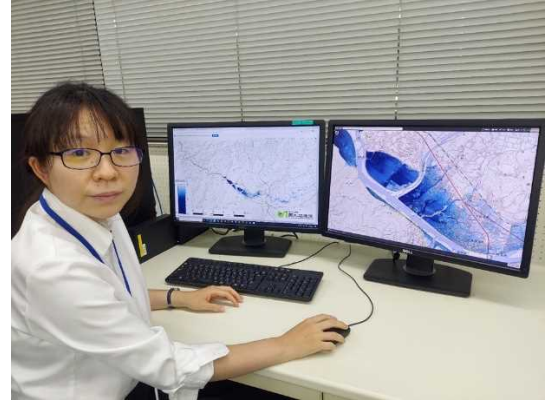




みなさん、こんにちは。

業務紹介第20弾として国土地理院の業務内容を、国土地理院応用地理部地理情報処理課の宮下補佐（入省9年目）より語ってもらいました！



国土地理院応用地理部地理情報処理課 宮下補佐（入省9年目）

1. 国土地理院の業務の国交省における役割を教えてください。

国土地理院は、土地の測量及び地図の作成に関する施策を所掌しています。

具体的には、

『国土を測る』：日本の正確な位置の基準を定める

『国土を描く』：すべての地図の基礎となる地図を整備する

『国土を守る』：最新技術を活用して防災施策等を推進する

『国土を伝える』：災害の備えとなる防災地理情報等を提供する

という4つの役割を担っています。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

我が国は地殻変動が激しく、衛星測位によって得られる位置情報と地図には最大で2m程度のズレが生じています。自動車や農機・建機等の自動運転、ドローン物流などの高精度測位を必要とするサービスでは、この地殻変動によるズレを適切に補正し、移動体の安全を確保する必要があります。国土地理院は、地殻変動補正システムを整備して、誰もがこのズレを意識することなく位置情報を活用できる仕組みを提供しています。

また、災害への対応として、過去の自然災害の教訓を後世に伝えるべく先人たちが残した石碑等の情報を自然災害伝承碑として地図に掲載し、地域住民の防災意識の向上に役立てていただくための取組や、近年多発する水害においては、SNS等で収集した情報から水際の位置を推定し、標高データと組み合わせて浸水の範囲と深さを表現した浸水推定図を作成するなど、防災や災害時の対応に役立つ情報を整備しています。

3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

主に、防災や災害時の対応に資する地図等の情報の収集・整備について、担当しています。また、環境省や復興庁、地方公共団体に出向している職員もいます。

具体的には、市区町村から申請のあった自然災害伝承碑について、碑名、伝承内容、位置情



報といった碑の情報を確認し、地理院地図（国土地理院のウェブ地図）や2万5千分の1地形図に掲載・公開をしています。現在、47都道府県284市区町村949基（2021年6月2日時点）が地理院地図などに掲載されています。これらの情報は、学校教育や地域学習などに活用されるなど、地域住民による防災意識の向上に役立てていただいています。

また、台風や豪雨等の災害時には、浸水推定図を作成し、関係機関へ提供するとともに、国土地理院HPにて公開する作業に携わっています。作業体制は、浸水推定図を作成するための情報を収集する班、浸水推定図を作成する班、時点情報や凡例等を記載する班に分かれており、私は情報を収集する班に属しています。SNSや報道等から浸水状況の分かる画像や動画等を収集し、浸水範囲や位置情報を特定し地図上にプロットする作業を担当しています。

4. 苦勞する点や、やりがいについて教えてください。

自然災害伝承碑の地理院地図への掲載業務については、市町村と連携して防災教育や地域学習等における活用を推進するとともに、地図へ掲載する伝承碑の数を増やすため、日々業務にいそしんでおります。例えば、市町村から申請のあった碑の内容を確認したり、文献等の情報から伝承碑の候補となり得る碑を探したり、といった業務をしています。

市町村から申請のあった碑について、碑そのものには被害情報が記載されていない場合もあり、被害情報を確認するのに苦勞しますが、同僚や上司に相談しつつ進めています。一見、全く伝承碑に該当しないように見受けられる場合であっても、地域住民の間で言い伝えがあることや市町村史に伝承の役割が記載されていることがあります。このため、市町村に参考文献や写真等の追加資料を頂き、判断材料とするようにしています。

これらの検討、調整を経て地理院地図（国土地理院のウェブ地図）や地形図に掲載・公開された際にはやりがいを感じています。

災害時の浸水推定図の作成業務については、迅速に関係機関へ提供するため、図の作成は時間との勝負になります。担当部署の職員が総動員で作業工程毎に作業をしています。私の所属する情報収集班では、夜間や人が住んでいない地域では、災害発生直後にSNSや報道等から得られる情報が少なく、浸水推定図を作成する情報収集や浸水範囲の位置特定に苦勞しています。多様なメディア等を確認し、少しでも多くの情報を収集するように、また画像に写っている地形や建物の特徴から位置が特定出来る様に努めています。浸水推定図が速報版としてホームページに公開された時には、やりがいを感じています。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

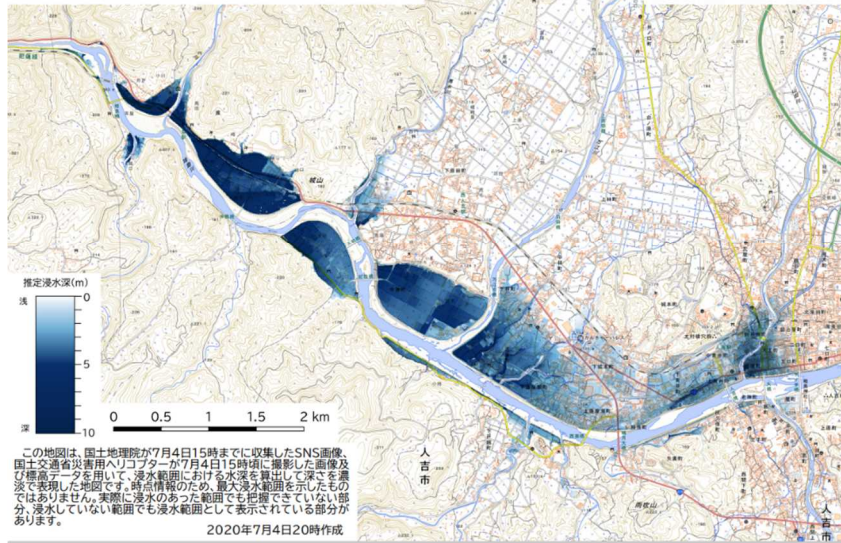
国土地理院の業務は、測量、地図、防災等多岐に渡っています。私自身も現在の業務を担当するとは学生の時や入省した時には想像もつきませんでしたし、国土地理院には皆様の知らない面白い業務がたくさんあります。職員のバックグラウンドも多岐に渡っており、ご自身の専門分野が生かせる所、専門分野ではないけれど興味を引く所はきっとあると思います。

ぜひ一度、下記ホームページや国土地理院の採用Facebookに掲載している情報をご覧になって、国土地理院の業務内容、職場の雰囲気等、チェックしてみてください。

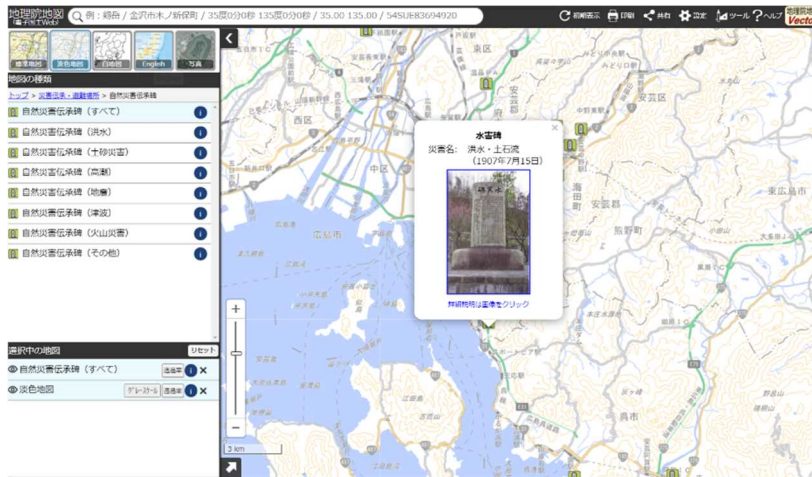
■国土地理院の採用情報ページ(<https://www.gsi.go.jp/GSI/RECRUIT/recrt.html>)



令和2年7月3日からの大雨による浸水推定図
球磨川水系球磨川5



浸水推定図



地理院地図（伝承碑①）

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦 四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日來降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集

ID:34309-002

地理院地図（伝承碑②）